

職員による自己評価

A環境面

活動スペース等の確保は、はい・どちらでもないという回答が50%ずつであった。バリアフリー化はなされているとの回答であった。

B児童への支援内容

支援計画、活動プログラム等はチームで実施出来ている。当日に振り返りを行い、気づいた点を共有することが出来ている。平日、休日に応じて課題を細かく設定しているという問いについては出来ていない、どちらでもないという回答が目立った。

C関係機関との連携

学校や他事業所との連携は出来ている。地域の放デイ連絡会等にも出席している。就学前に利用していた療育センター等との連携は少ない。

D保護者への説明責任・信頼関係

説明についてはしっかり行なえている。送迎時、定期的な面談や電話連絡で行なえている。信頼関係の構築は概ね出来ている。

E非常対応

避難訓練は実施の案内を行い年に2回行った。緊急時マニュアル等を保護者全員に周知出来ていない。

保護者による評価

A環境面

具体的なコメントは無かったが8割の方に活動等のスペースの確保とバリアフリー化は出来ているとの回答を得た。

B児童への支援内容

9割超の方から活動については満足しているとの回答を得た。週ごとにスタッフが活動プログラムを考えてくれているとのコメントがあった。障害が無い地域の子どもと交流する機会について、どちらでもない・ないという回答が多かった。

C事業所からの情報発信

8割の方から出来ているとの回答を得た。毎月放デイだよりの発行がある。ホームページや広報誌もある。保護者会を年に1回開催されているが少ないと感じる。

D非常対応

緊急時マニュアル、防犯マニュアル等について周知、説明されていない、どちらでもないという回答が合わせて3割あった。

事業所内での分析

【共通点】

- ・ 支援については利用者様（子ども）の事を考え、活動プログラム、支援計画を考えているので保護者についても満足して頂けたという回答が殆んどであったので共通する部分である。
- ・ 地域の障害がない子どもとの交流はスタッフも保護者も不足しているという事で共通している。

【相違点】

- ・ 環境面について保護者の方からは活動スペースの確保等が出来ており環境面で配慮されているという事であったが実際に支援をしているスタッフからはスペースの確保等について不十分な部分もあるのではという評価の相違があった。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- 子ども達ひとりひとりの良い所、出来る事をスタッフ間で共有し、伸ばしていけるような関わりが出来ている。
- 創作、レク、ムーブメント等の活動プログラムを計画、実施し心身の発達と子どもとスタッフが笑顔で楽しむ事が出来ている。
- 看護師、セラピスト等の多職種の連携体制がとれている。

事業所の改善点

- 活動スペースの見直し。環境整備に努める。
- 地域の障害の無い子ども達との交流する機会の確保。
- 防災訓練、緊急マニュアル等を周知徹底。

事業所の改善への取り組み

- 活動スペースにおいては事業所内でどのようにしたら安心・安全な環境でサービスを提供できるかしっかり考えていく。
- 事業所スタッフ、保護者で評価の相違があったという事はまだまだ保護者の方に実際の様子が伝わっていない部分もあると思われるので親子プログラム等の計画やもっと積極的に「伝える」という事を行っていく。
- 防災、非難訓練の実施を放デイだよりや施設のホームページで周知していく。
- 地域のお祭りやイベントに参加し、地域の方と交流が持てるように努めていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業を開始して2年経ったが支援の内容については保護者からも概ね評価して頂いたので現状に満足せず続けることが大切と感じた。保護者とのコミュニケーションの重要性を改めて感じる事もでき、学校、他事業との更なる情報共有、連携を図りより良い支援に繋げていきたい。

事業所名 放課後等デイサービスこまち

担当者 井上 淳